

2016年3月期第3四半期 ご参考資料

日本通運株式会社 経営企画部(IR)

I. 経営状況	
A. 2016年3月期第3四半期決算の概要	P. 1
B. セグメント別状況	P. 2-
II. 経営計画の進捗状況	P. 8
III. 外部環境の変化	
A. 増減要素(3Q累計)	P. 9
B. 外部要因の想定(過期)	P. 10

2016年1月29日

I. 経営状況



A. 2016年3月期第3四半期決算の概要

1) 概要 (連結)

(単位: 億円、%)

		2016/3期 3Q実績 ①	2015/3期 3Q実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	通期業績予想 (5月8日発表) ⑤	進捗率 ①÷⑤×100	差額 ⑤-①
累計	売上高	14,348	14,177	170	1.2	20,000	71.7	5,651
	営業利益	385	347	37	10.9	540	71.3	154
	経常利益	450	417	33	8.0	630	71.5	179
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	273	243	30	12.4	340	80.6	66
単 四 半 期	売上高	4,816	4,985	△169	△3.4			
	営業利益	153	145	8	5.9			
	経常利益	173	167	6	4.0			
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	121	83	38	46.7			

(億円未満切捨て)

2) 連結経営指標

3Q累計 (前年同期)

3Q累計 (前年同期)

・売上高営業利益率	2.7%	(2.4%)	・ROE	6.8%	(6.4%)
・売上高経常利益率	3.1%	(2.9%)	・ROA	2.5%	(2.3%)

Copyright © 2016 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2016年3月期第3四半期 ご参考資料

1

◇事業環境に関する認識と確認(経済環境)

中国経済の減速や大幅な原油価格の下落に加え、国際社会における地政学的リスクの高まりなどもあり、先行き不透明な状況で推移。

◇事業環境に関する認識と確認(物流業界の状況)

物流業界においては、こうした経済情勢を背景に、国内貨物は消費者マインドの低下などから緩慢な荷動きとなり、国際貨物は中国をはじめとしたアジア向け貨物が減少するなど、総じて力強さを欠く状況で推移。

◇通期の業績予想

連結、個別とも、昨年5月8日に発表した数値を据え置いた。

連結全体は据え置いたが、これまでの実績と今後の経営環境に鑑み、「複合事業」と「販売」以外のセグメント利益を変更。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

1) 複合事業

(単位：億円、% [] 内は利益率)

	実績	前年同期対比		過期予想 (1/29発表)	過期予想 (5/8発表)	増減額	増減率		
		16/3期3Q	15/3期3Q					増減額	増減率
累計	売上高	5,511	5,548	△36	△0.7	7,432	7,432	0	0
	セグメント利益	[2.7]146	[2.1]113	32	28.7	219	219	0	0
単四半期	売上高	1,873	1,892	△18	△1.0	・トラック輸送の年末にかけての荷動きは、盛り上がりを欠く状況で推移 ・ロジスティクス業務の取扱いは好調を維持 ・燃油費単価下落や料金改定の効果が継続し、増益を確保			
	セグメント利益	[3.1]58	[2.6]49	9	19.6				

2) 警備輸送

(単位：億円、% [] 内は利益率)

	実績	前年同期対比		過期予想 (1/29発表)	過期予想 (5/8発表)	増減額	増減率		
		16/3期3Q	15/3期3Q					増減額	増減率
累計	売上高	405	415	△10	△2.4	556	556	0	0
	セグメント利益	[2.7]11	[1.5]6	4	79.7	14	13	0	6.0
単四半期	売上高	133	139	△5	△4.2	・一部の不採算業務から撤退したことにより、減収 ・前年に実施した車両改修の反動により、増益			
	セグメント利益	[3.1]4	[1.6]2	1	82.6				

※以下、セグメント毎の概況は、第3四半期単四半期の内容

◇複合事業・・・減収、増益

個別の売上高の数字をベースとしてご説明。

鉄道取扱の売上高は+4.7%。飲料関連の荷動きが好調を維持したほか、

前年に天候不順の影響で、貨物列車の運休が多かったことの反動増によるもの。

自動車全体の売上高は△1.6% (積合せ△2.3%、貸切り△1.4%)

燃油費単価の下落、料金改定の効果が継続しているが、期待された年末にかけての荷動きは、盛り上がりを欠く状況で推移。

倉庫の売上高は△3.6%。衣料品関連の大手顧客から撤退したことなどが大きく影響。

通販関連をはじめとするロジスティクス業務の取扱いは、工場内に計上している分を含め、好調を維持。

◇警備輸送・・・減収、増益

第1四半期から、一部の不採算業務から撤退したことにより、売上げは減少したものの、

前年に実施した車両改修の反動により、当・第3四半期においても、増益。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

3) 重量品建設

(単位: 億円、% [] 内は利益率)

	実績	前年同期対比		通期予想 (1/29発表)	通期予想 (5/8発表)	増減額	増減率		
		16/3期3Q	15/3期3Q					増減額	増減率
累計	売上高	403	357	45	12.7	489	489	0	0
	セグメント利益	[6.1] 24	[4.8] 17	7	42.7	30	22	7	34.1
単四半期	売上高	128	111	16	14.8	・国内の風力発電関連の取扱いが堅調に推移 ・海外においても、ベトナム、ロシアでの大型工事が順調に売上げを伸長	概況		
	セグメント利益	[6.6] 8	[5.5] 6	2	39.2				

※以下、セグメント毎の概況は、第3四半期単四半期の内容

◇重量品建設・・・増収、増益

国内においては、風力発電関連の取扱いが堅調に推移。

海外においても、ベトナム、ロシアでの大型工事が順調に売上げを伸長。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

4) 航空

(単位：億円、% []内は利益率)

	実績	前年同期対比		通期予想 (1/29発表)	通期予想 (5/8発表)	増減額	増減率		
		16/3期3Q	15/3期3Q					増減額	増減率
累計	売上高	1,374	1,422	△47	△3.3	1,957	1,957	0	0
	セグメント利益	[3.6]49	[3.3]46	2	5.1	69	75	△5	△7.7
単四半期	売上高	469	503	△33	△6.7	<ul style="list-style-type: none"> ・日本発輸出貨物の取扱重量が、前年比マイナスで推移 ・燃油サーチャージの大幅な下落、前年の米国西海岸の港湾混雑による自動車関連特需の兆し、中東向け緊急支援物資輸送の反動減が、減収要因 ・輸出の混載効率の向上、輸入のオペレーション効率の改善、ソフトウェア関連費用の減により、増益 			
	セグメント利益	[5.8]27	[4.2]21	6	29.5				

5) 海運

(単位：億円、% []内は利益率)

	実績	前年同期対比		通期予想 (1/29発表)	通期予想 (5/8発表)	増減額	増減率		
		16/3期3Q	15/3期3Q					増減額	増減率
累計	売上高	902	895	7	0.8	1,228	1,228	0	0
	セグメント利益	[5.3]48	[4.4]39	8	21.7	59	57	1	3.3
単四半期	売上高	293	298	△5	△1.9	<ul style="list-style-type: none"> ・設備輸送関連の輸出に一服感 ・内航の燃油費単価下落に伴う収受額の減少も影響 ・海外引越の取扱いが、輸出入ともに好調を維持し、増益 			
	セグメント利益	[5.1]14	[3.4]10	4	44.1				

※以下、セグメント毎の概況は、第3四半期単四半期の内容

◇航空・・・減収、増益

日本発輸出航空貨物の取扱重量は△5.9%。

方面別の内訳では、米州地域向けが△18.4%、欧州地域向けが+22.3%、アジア・オセアニア地域向けが△8.4%。

燃油サーチャージの大幅な下落に加え、前年にあった米国西海岸の港湾混雑による自動車関連特需の兆しや中東向け緊急支援物資輸送の反動減が、減収の大きな要因。輸入では、通関件数が△2.8%となったものの、ロジスティクス業務が堅調に推移したことから、前年並みの売上げを確保。

国内貨物は、医療機器関連の荷動きが低迷し、減収。

一方、利益面では、輸出において混載効率の向上や経由便の利用に努めたこと、輸入では、オペレーション効率の改善が図られたことに加え、ソフトウェア関連費用の減なども寄与し、増益。

◇海運・・・減収、増益

輸出は設備輸送関連が売上げを支える状況が継続したが、一服感が出て、前年の売上げに及ばず。

輸入は、アパレル・雑貨関連などの取扱いが堅調だったものの、青果関連が減少し若干の減収。

一方で、海外引越は輸出入とも好調を維持し、当・第3四半期においても、利益を牽引。

内航は、荷動き自体は悪くなかったものの、燃油費単価下落に伴う収受額の減少が影響し、減収。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

6) 米州

(単位：億円、% [] 内は利益率)

	実績		前年同期対比		通期予想 (1/29発表)	通期予想 (5/8発表)	増減額	増減率	
	16/3期3Q	15/3期3Q	増減額	増減率					
累計	売上高	714	572	141	24.8	982	982	0	0
	セグメント利益	[5.7]40	[4.8]27	13	48.2	50	41	9	22.5
単四半期	売上高	231	198	33	16.7	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいては、減収、増益 ・米国において、アジア向け航空・輸出フォワーディングが、メキシコでは、海運・輸入フォワーディングが堅調に推移 ・ブラジルは景気減退により、荷動きが低迷 	概況		
	セグメント利益	[5.8]13	[5.1]10	3	33.1				

7) 欧州

(単位：億円、% [] 内は利益率)

	実績		前年同期対比		通期予想 (1/29発表)	通期予想 (5/8発表)	増減額	増減率	
	16/3期3Q	15/3期3Q	増減額	増減率					
累計	売上高	618	599	19	3.2	850	850	0	0
	セグメント利益	[1.6]10	[3.0]18	△8	△44.3	15	24	△8	△35.8
単四半期	売上高	208	203	4	2.3	<ul style="list-style-type: none"> ・英国で、海運・輸入フォワーディング、フランスでは、航空・輸出フォワーディングの取扱いが増加 ・オランダの倉庫配送業務が伸長した一方で、立ち上げ費用増の継続やロシア経済の低迷による荷動きの鈍化により、減益 	概況		
	セグメント利益	[1.5]3	[3.9]7	△4	△59.6				

※以下、セグメント毎の概況は、第3四半期単四半期の内容
「海外会社」の第3四半期は、7-9月期

◇米州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでは、減収、増益。

米国においては、アジア向けの航空・輸出フォワーディングが伸長したほか、国内のトラック輸送の取扱いも好調を維持。

メキシコでは、自動車関連の海運・輸入フォワーディングの取扱いが堅調に推移。

ただし、ブラジルでは景気後退の影響により、荷動きが低迷。

◇欧州・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

英国では、雑貨関連の海運・輸入フォワーディング、フランスにおいては、自動車関連の航空・輸出フォワーディングの取扱いが増加、オランダでの倉庫配送業務も順調に売上げを伸長。

一方で、オランダの新倉庫立ち上げに伴う費用増の継続やロシア経済の低迷による荷動きの鈍化が、減益の要因。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

8) 東アジア

(単位: 億円、% [] 内は利益率)

	実績	前年同期対比		通期予想 (1/29発表)	通期予想 (5/8発表)	増減額	増減率		
		16/3期3Q	15/3期3Q					増減額	増減率
累計	売上高	868	733	134	18.4	1,188	1,188	0	0
	セグメント利益	[1.4]12	[2.0]14	△2	△17.7	17	22	△5	△25.0
単四半期	売上高	293	252	41	16.3	・中国では、医療機器関連の航空・輸出フォワーディングの取扱いが増加 ・自動車関連の調達物流の取扱いも、好調を維持 ・中国における人件費など、各種コストの上昇により、減益			
	セグメント利益	[2.2]6	[3.0]7	△1	△15.5				

9) 南アジア・オセアニア

(単位: 億円、% [] 内は利益率)

	実績	前年同期対比		通期予想 (1/29発表)	通期予想 (5/8発表)	増減額	増減率		
		16/3期3Q	15/3期3Q					増減額	増減率
累計	売上高	538	454	83	18.5	788	788	0	0
	セグメント利益	[2.1]11	[2.3]10	0	6.2	16	11	5	42.0
単四半期	売上高	170	162	7	4.7	・現地通貨ベースにおいては、減収、減益 ・航空・輸出フォワーディング、倉庫配送が堅調に推移 ・前年の重機建設関連のプロジェクトの反動減や中国の景気後退が影響 ・航空利用費など各種コストの上昇により、減益			
	セグメント利益	[1.5]2	[2.3]3	△1	△30.1				

※以下、セグメント毎の概況は、第3四半期単四半期の内容
「海外会社」の第3四半期は、7-9月期

◇東アジア・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

中国では、医療機器関連の航空・輸出フォワーディングの取扱いが増加したほか、自動車関連の調達物流の取扱いも、引き続き好調を維持。

香港でも、電子・電機関連の航空・輸出フォワーディングの取扱いが堅調に推移。

一方で、中国における人件費など各種コストも上昇し、地域全体では、減益。

◇南アジア・オセアニア・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでは、減収、減益。

フィリピン、シンガポールをはじめとした地域全体において、自動車、電子・電機関連の航空・輸出フォワーディング、倉庫配送業務が堅調に推移。

タイでは、前年にあった重機建設関連の大型プロジェクトの反動減が影響。

中国における景気後退も影響。

コスト面では、シンガポールにおける航空利用費の上昇などもあり、地域全体では、減益。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

10) 販売

(単位：億円、% [] 内は利益率)

	実績	前年同期対比		通期予想 (1/29発表)	通期予想 (5/8発表)	増減額	増減率		
		16/3期3Q	15/3期3Q					増減額	増減率
累計	売上高	2,792	3,212	△420	△13.1	4,115	4,115	0	0
	セグメント利益	[1.7]46	[1.4]46	△0	△0.2	65	65	0	0
単四半期	売上高	934	1,128	△193	△17.2	・石油類の販売単価下落により、減収 ・輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も低調に推移			
	セグメント利益	[1.5]14	[1.6]18	△4	△22.6				

11) その他

(単位：億円、% [] 内は利益率)

	実績	前年同期対比		通期予想 (1/29発表)	通期予想 (5/8発表)	増減額	増減率		
		16/3期3Q	15/3期3Q					増減額	増減率
累計	売上高	1,263	983	280	28.5	1,760	1,760	0	0
	セグメント利益	[1.8]22	[1.9]18	4	23.3	27	33	△6	△18.5
単四半期	売上高	426	445	△18	△4.2	・日通NECロジスティクス及び日通・パナソニック ロジスティクス社が荷動き低迷の影響を受け、減収 ・料金改定の効果や各種コスト削減の取組みにより、増益			
	セグメント利益	[3.7]15	[2.5]11	4	41.8				

※以下、セグメント毎の概況は、第3四半期単四半期の内容

◇販売・・・減収、減益

日通商事において、石油類の販売単価が下落したために、売上げが減少したほか、輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も低調に推移。

◇その他・・・減収、増益

日通NECロジスティクス社の連結効果が一巡。

日通及び日通・パナソニック ロジスティクス社が荷動き低迷の影響を受け、減収。

一方で、料金改定の効果や各種コスト削減の取組みが奏功し、セグメント全体では、増益。

II. 経営計画の進捗状況



日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進- 基本戦略の進捗状況

基本戦略	項目	進捗状況
国内事業の経営体質強化	2016年3月期 国内複合事業営業利益率 3%	2016年3月期3Q累計実績 2.7% (2015年3月期3Q累計実績 2.1%) (2016年3月期3Q単四半期実績 3.1%)
グローバルロジスティクス 事業の更なる拡大	2016年3月期 国際関連事業売上高比率 40%	2016年3月期3Q累計実績 36.4% (2015年3月期3Q累計実績 33.5%)

◇国内複合事業営業利益率の3%達成に向けて
複合事業営業利益率の実績は、前年対比で0.6ポイント改善の2.7%。
当・第3四半期単独では、前年対比0.5ポイント改善の3.1%となり、
今年度の通期目標3%の達成に向けて、順調に進捗。
引き続き、コスト削減に対する取組みを推進。

◇国際関連事業売上高比率の40%達成に向けて
航空・輸出の売上げが低迷したものの、海外会社が順調に売上げを伸ばしたことにより、
当・第3四半期累計では、36.4%。

III. 外部環境の変化



A. 増減要素（3Q累計）

変動要素	連結業績への影響 (3Q累計)	参考
燃油費単価変動 による影響	燃油費 $\Delta 49.8$ 億円 (費用減) ※3Q単四半期 $\Delta 16.5$ 億円 (費用減)	(前年同期) 軽油 : 88.78 円/ℓ (117.47円) ガソリン : 125.49 円/ℓ (150.47円) 船舶重油 : 46.20 円/ℓ (71.38円)
為替による影響	売上高 $+248.4$ 億円 営業利益 $+8.1$ 億円 ※3Q単四半期 売上高 $+81.0$ 億円 営業利益 $+3.2$ 億円	3Q累計期間平均レート(※) (前年同期) USD : 120.89 円 (102.95円) EUR : 134.77 円 (139.54円) HKD : 15.59 円 (13.28円) RMB : 19.32 円 (16.72円)

(※) 記載の為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを、現地通貨建の四半期実績に適用している。

III. 外部環境の変化



B. 外部要因の想定（通期）

変動要素	連結業績への影響 （通期）	前提条件
燃油費単価変動 による影響	燃油費 $\Delta 56.9$ 億円 （費用減） ※差引き4Q単四半期 $\Delta 7.1$ 億円 （費用減）	（前期年間平均） 軽油 : 86.61 円/ℓ（ 110.55 円） ガソリン : 123.83 円/ℓ（ 144.40 円） 船舶重油 : 43.46 円/ℓ（ 66.47 円）
為替による影響	売上高 $+236.0$ 億円 営業利益 $+7.7$ 億円 ※差引き4Q単四半期 売上高 $\Delta 12.4$ 億円 営業利益 $\Delta 0.4$ 億円	（前期年間平均（※）） USD : 119.40 円（ 105.85 円） EUR : 130.90 円（ 140.42 円） HKD : 15.40 円（ 13.65 円） RMB : 19.20 円（ 17.19 円）

（※）年間為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを、現地通貨建の四半期実績に適用している。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。